

学園の今を伝える立正大学学園新聞

# RISSHO UNIVERSITY NEWS

P2 新理事長よりご挨拶

P6 輝く人  
現役立正生が  
スポーツデータサイエンティスト!?

P11 立正人 “異色のキャリア”を持つ卒業生

P16 陸上競技部 駅伝部門 新監督就任

Vol. 158  
Spring 2024

## 祝! ご卒業 ご入学おめでとうございます



 **立正大学**  
「モラリスト×エキスパート」を育む。

品川キャンパス 〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16 / Tel.03-3492-5250

熊谷キャンパス 〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700 / Tel.048-536-6010

**Website**

学園新聞Web版はこちらから

立正大学マガジン





## 新理事長よりご挨拶

# 止暇断眠

2024年4月より理事長に就任いたしました生駒雅幸です。

2022年に開校150周年を迎えた立正大学学園は、一世紀半の歴史から未来へ向けて新たな一歩を踏み出しました。「真実・正義・和平」を謳う本学の立正精神は、今を遡る800年前、天変地異の続く鎌倉時代において国を想い、人を想い、社会の安寧を祈られた日蓮聖人にその源流が求められます。お釈迦様の説かれた法華経より湧き出でた一滴が、日蓮聖人とともに悠久の時を超えて大きな河となり本学の今に続いているのです。

日蓮聖人の言葉に「我が門家は夜は眠りを断ち 昼は暇を止めてこれを案ぜよ 一生空しく過して 万歳悔ゆる事勿れ」という一節があります。これは、我が一門の人々は、夜は眠る時間を惜しみ、昼間は少しの暇な時間であっても無駄にせず、十分に学び考えるべきである。そして一生を考えることもなく空しく過してしまつて、あとで悔いを万歳にまで残すようなことがあってはならない、という大意ですが、「止暇断眠」の姿勢を心がけることが、真実を求め至誠を捧げること、正義を尊び邪悪を除くこと、そして和平を願ひ人類に尽すことへと繋がっていくのではないのでしょうか。身近な日常に置き換えれば学生諸君は学びの場で、あるいは課外活動の場でそうした姿勢を心がけることにより、学問探究の深い成果を得、あるいは高いステージへと到達することができるのではないかと考えますし、社会人となってからは、本学で学び過ごした日々が様々な困難を乗り越える力となり、それぞれが社会を担う人材へと成長していくのだと思います。本学の卒業生で客員教授でもある登山家の竹内洋岳氏は世界で29人目、日本人で唯一の8000メートル峰全14座の登頂者ですが、氏の言に「挑戦に欠かせないのは好奇心であり探求心であり、それを発揮できる環境に身を置くことができるか。そこが最も重要」というものがありますが、本学の環境こそが竹内氏の心と姿勢を育み偉業へと導いたのだと思います。

一方で、現代社会に目を転じると大学を取り巻く環境は厳しさを増しています。ことに18歳人口減少への対応は喫緊の課題ですが、これは選ばれる大学へのチャンスでもあります。10年後の本学があるべき姿をまとめた立正グランドデザインのコンセプトには「多様性を尊重し、伝統と新たな知を融合することで、社会に革新をもたらすことのできる人材が集う学園」と示されました。そうした人材を育み、選ばれる大学としてあるためには単に学生教育研究の場としてあるだけではなく「知の集積地」として日常的にその存在を社会に生かしていくことが求められます。

急激な時代変化の中で、本学はその教育研究の成果によりどのような社会発展への寄与ができるのか、本学でなければ出来ないことは何なのか、10年後に本学はどのような存在でありたいのかが問われています。開校80周年に当たる1952年より16年にわたり本学学長を務められた石橋湛山先生は、法華経の精神と学問の実践を一体化する生き方を説き、建学の精神を立てられました。そして今、本学には志を持って学ぶ1万人の学生とその保護者、学生たちを育む優れた教職員、そして学生たちの未来を生きる建学以来の卒業生等多くの校友のみなさまがいます。根が深ければ枝は茂り、源が遠ければ流れは長いと日蓮聖人は言われましたが、本学の歴史と伝統を培ってきた立正人はまさに深き根であり長き流れであります。私も校友の一人として学園発展のためみなさまとともに邁進する所存ですので、みなさまには何卒ご理解ご協力をたまわりますようお願い申し上げます。



理事長  
生駒 雅幸

1958年(昭和33年)生まれ。慈恵山安立院の住職。  
〈学歴〉  
1981年3月 明治大学卒業  
1981年4月 立正大学3年次編入  
1983年3月 立正大学卒業  
〈経歴〉  
全日本仏教会評議員  
日蓮宗総務局長  
立正大学学園理事  
身延山大学特別講師

## ベスト・クラス賞 蘊奥賞 決定

### 《2023(令和5)年度ベスト・クラス賞 受賞者一覧》

ベスト・クラス賞は、教育内容の充実と授業改善の奨励を目的として、毎年授業改善アンケートの結果より、高い評価を獲得した科目を選出し、表彰しています。2023年度は新しい知識の修得等に関する項目および総合満足度のスコアに加え、回答数や回答率などを選考資料とし、1期・2期各2名、計4名の先生方が選出されました。

開講期	教員所属学科等	担当教員	科目名
1期	臨床心理学科	鹿嶋 真弓	生徒理解と教育相談A/生活指導の研究IA
	非常勤	林 恵	特別支援教育概論C
2期	子ども教育福祉学科	門脇 大輔	道徳の理論と指導法
	非常勤	金 成恩	コリアの文化とことばB

### 《蘊奥賞 受賞者》

蘊奥賞は、日蓮宗からの研究奨励金をもとに、学術研究を極め、本学の教育研究の活性化に寄与した方や、研究成果の社会的還元によって本学の社会的評価を高めることに貢献した方を表彰することを目的に平成18年度に創設されました。

2023年度は、3名の先生方に授与されました。

受賞名	教員所属学部	担当教員
蘊奥本賞	文学部	島村 幸一
蘊奥奨励賞	仏教学部	丹治 恭子
	法学部	出口 哲也

## 体育会拳法部 創部70周年記念式典を開催

創部70周年を迎えた拳法部が2023年11月11日、朗峰会館(東京都大田区)で物故者追善と記念式典を開き、120人が参加しました。

物故者追善では寺尾学長が導師を務め、部の発展に寄与した多くの故人を偲びました。その後行われた式典では参加者が旧交を温める中、吹奏楽部と応援指導部による友情応援が行われ、大いに盛り上がりました。

拳法部は1953年、関西で日本拳法を学んだ空手部員により、東日本の大学として初めて創立されました。以降、全日本学生拳法選手権大会や全国大学拳法選抜選手権大会などでタイトルを獲得しているほか、多くの個人王者や指導者を輩出しています。

創立メンバーの一人で橘拳法会(OB会)会長を務める辻井照一氏が「今後も立正拳法、橘拳法会をよろしく願ひいたします」と謝辞を述べ、式典は盛会のうちに幕を閉じました。



吹奏楽部と応援指導部による友情応援



辻井会長による謝辞

# 令和5年度 課外活動顕彰について

本学では、課外活動で優秀な成績をおさめた団体や個人のみならず、課外活動を通じて社会貢献をされた方、永年にわたって課外活動を指導・育成された方々の功績を顕彰しています。

2023(令和5)年度は、5つの課外活動団体、21名の学生、1名の教員の方々に決定いたしました。

## 令和5年度 課外活動顕彰一覧

### 〈団体部門〉

顕彰種類	団体名	主たる顕彰理由
優秀賞	射撃部	2023年度全日本学生スポーツ射撃選手権大会において、男女ともに団体戦に出場。男女ともに出場するのは創部以来初の快挙。
優秀賞	排球部	第76回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会に出場。
奨励賞	吹奏楽部	令和5年度東京都大学吹奏楽コンクールに出場し、金賞を受賞。第63回東京都吹奏楽コンクール大学の部に出場。
奨励賞	卓球部	令和5年秋季関東学生卓球リーグ戦(男子4部)優勝。入替戦にも勝利し、3部昇格。
敢闘賞	ソフトテニス部	令和5年度関東学生ソフトテニス春季リーグ戦(男子)8部優勝。入替戦にも勝利し、7部昇格。



### 〈個人部門〉

顕彰種類	団体・個人名	主たる顕彰理由
優秀賞	剣道部 飯塚 優斗さん(2023年度卒)	第69回関東学生剣道選手権大会ベスト16(全日本出場権獲得)。第71回全日本学生剣道選手権大会ベスト32。
優秀賞	剣道部 菅原 義仁さん(2023年度卒)	第71回全日本都道府県対抗剣道優勝大会(団体戦)に秋田県代表として出場。
優秀賞	剣道部 茂筑 健さん(4年)	第69回関東学生剣道選手権大会出場(敗者復活戦により全日本出場権獲得)。第71回全日本学生剣道選手権大会出場。
優秀賞	剣道部 森元 南々子さん(4年)	第54回全日本仏教系女子剣道大会(個人戦)優勝。
優秀賞	水泳部 日下部 倅慎さん(2023年度卒)	第99回日本学生選手権水泳競技大会に、男子50m自由形で出場。
優秀賞	水泳部 高久 麻希さん(2023年度卒)	第99回日本学生選手権水泳競技大会に、男子100m平泳ぎで出場。
優秀賞	水泳部 飯田 悠斗さん(4年)	第99回日本学生選手権水泳競技大会に、男子200m個人メドレー、男子400m個人メドレーで出場。
優秀賞	水泳部 高田 伊武紀さん(4年)	第99回日本学生選手権水泳競技大会に、男子200m個人メドレー、100m自由形で出場。
優秀賞	水泳部 久保 翔希さん(2年)	第99回日本学生選手権水泳競技大会に、男子200m自由形で出場。
優秀賞	射撃部 成川 和馬さん(2023年度卒)	2023年度全日本大会学生スポーツ射撃選手権大会に、10mエアライフル立射60発競技で出場。
優秀賞	射撃部 平石 悠真さん(4年)	2023年度全日本大会学生スポーツ射撃選手権大会に、10mエアライフル立射60発競技で出場。

顕彰種類	団体・個人名	主たる顕彰理由
優秀賞	射撃部 山形 梨奈さん(4年)	2023年度全日本大会学生スポーツ射撃選手権大会に、10mエアライフル立射60発競技で出場。
優秀賞	射撃部 荘司 悠汰さん(3年)	2023年度全日本大会学生スポーツ射撃選手権大会に、10mエアライフル立射60発競技で出場。
優秀賞	射撃部 齊藤 孝貴さん(3年)	2023年度全日本大会学生スポーツ射撃選手権大会に、10mエアライフル立射60発競技で出場。
優秀賞	射撃部 菅沼 友菜さん(3年)	2023年度全日本大会学生スポーツ射撃選手権大会に、10mエアライフル立射60発競技で出場。
優秀賞	弓道部 矢崎 友大さん(2023年度卒)	第71回全日本学生弓道選手権大会において、男子個人決勝へ進出。
奨励賞	排球部 荒瀬 好則さん(2023年度卒)	2023年度春季関東大学男子2部バレーボールリーグ戦において、ベストスコアラー賞受賞。
奨励賞	弓道部 影山 芽泉さん(4年)	第53回全関東学生弓道選手権大会において、女子個人決勝へ進出。
奨励賞	剣道部 土手 健汰さん(3年)	第51回埼玉学生剣道新人戦大会(男子個人)3位。
奨励賞	剣道部 鈴木 陽さん(2年)	第51回埼玉学生剣道新人戦大会(男子個人)準優勝。
特別賞	法学部 大谷 陸斗さん(3年)	ビーチサッカー日本代表に選出。第18回全日本ビーチサッカー大会(18歳以上対象)準優勝。

### 〈顧問・副顧問部門〉

顕彰種類	学部・個人名	主たる顕彰理由
感謝状 記念品	データサイエンス学部 教授 山下 倫範	『香道部』『バドミントンサークル=Jolly Fellow=』『地球にやさしい会』を永年にわたり顧問として指導した。





Oshiete! Sensei  
Q

# 先生に聞

たけべまさや  
**武部 匡也** 特任講師

所属: 心理学部 臨床心理学科  
研究分野: 認知行動療法

## Profile

関西大学大学院心理学研究科で博士号(心理学)を取得。2018年に立正大学心理学部臨床心理学科の助教として着任し、現在に至る。怒り感情の制御や摂食障害の予防研究、スポーツ選手のイップスに対する心理学的支援を専門としている。

**趣味/釣り(トラウト)**  
豊かな自然に囲まれた川で釣り上げるトラウトの美しい魚体に癒されています。

**休日の過ごし方/子どもの世話**  
最近子どもが生まれたので、一日子どもと遊んだりお話をして過ごしています。

**スポーツ/サッカー**  
なかなか行ける機会が減ってしまいましたが、年に必ず1回はスタジアムで現地観戦しています。



武部ゼミ

## 「心から本気で取り組めることを 学生生活の中で見つけてほしい」

Q1  
どんな研究をしているの?

いくつか研究テーマを持っていますが、今まで簡単にできていたことが急にできなくなってしまう「イップス(yips)」と呼ばれる、アスリートに特有の現象を最近は研究しています。ゴルフのパターや野球の送球などで発症する例が多く、緊張感が高まる場面で微細なコントロールを手で行う際に起こりやすいことがこれまでにわかっています。ただ、効果の確立された治療方法がいまだに明らかになっておらず、発症したアスリートは競技パフォーマンスが明らかに落ちてしまうため、深刻な悩みを抱えることがあります。私は認知行動療法といわれる臨床心理学の一技法を用いてアスリートの不安を取り除くことを通じて、イップスに悩むアスリートを支援する研究を行っています。

Q2  
その研究を始めようと思ったきっかけは?

イップスの研究があまり進んでいなかったことに衝撃を受けたのがきっかけです。私は昔からスポーツが好きでスポーツニュース等をよくチェックしていました。その中でプロのアスリートがイップスに悩んでいることを何度か目にしたことがありました。そんなに珍しい現象ではないという意識を持っていたので、その治療法なども確立されていると思っていたのですが、自分が研究者になって実際に調べてみると、治療法が確立されていないだけでなく、イップスがそもそもどんな現象か、その定義も専門家間で合意が得られていない現状に驚きました。イップスは発症すると選手生命に関わるので、少しでも研究者として何か貢献できないかと思い、スポーツ心理学を専門にしている研究仲間と一緒にイップスの研究を始めることになりました。

Q3  
学生には4年間でどのようなことを学んでほしい?

自分の心が動くものに本気で取り組んでほしいなと思います。コスパ・タイパなどの言葉に象徴されるように、「損したくない」「無駄にたくない」という先回りの思考が浮かびやすくなっている昨今では、それは難しいことかもしれません。「面白そうだな」「やってみたいな」と、自分の心が感じたものをしっかりキャッチして向き合うだけでも努力が必要ですし、そこから行動に移すのもまた億劫に感じるかもしれません。私自身は大学4年生で就職活動をしていた頃、それまで学んでいた法学を捨てて、心理学を学びたい、カウンセラーになりたいと思い、1年留年して心理学系の大学院に進学しました。今思うとなかなかの決断でしたが、自分の心が動くものに本気で取り組み始めてから、人生が大きく変わった実感があります。

教員としては、学生のみなさんが心の動くものを何か見つけられるように問いかけていきたいと思っています。



# いってみた

Vol.10



本間ゼミ

## ほん ま しゅん ぶん 本間 俊文 准教授

所 属：仏教学部 宗学科  
研究分野：日本仏教史  
日蓮教団史

### Profile

2012年3月に立正大学大学院文学研究科仏教学専攻博士後期課程を単位取得満期退学し、2016年4月より本学仏教学部に専任教員として着任。主に日本仏教の歴史的展開に関する研究を行っている。

趣味／家具・雑貨選び  
最近引っ越したので、部屋に合う家具や雑貨を探すのが今は好きです。

休日の過ごし方／子どもの習い事に同行  
子どもが阿波おどりを習っていて、最近はその練習に同行しています。それで一日が大体終わります。

スポーツ／陸上競技  
大学時代まで陸上部に所属しており、種目は競歩でした。今は見ての通り運動不足です。

犬派・猫派／犬派(柴犬派)

## 「自分自身を知り、成長させてくれるヒントが 仏教の学びには詰まっている」

### Q1 大学の教員になった きっかけは？

私は日蓮宗寺院の出身で、日蓮宗僧侶を目指すという目的のもと、他大学卒業後に本学仏教学部へ3年次編入学しました。寺院で生まれ育ったものの、それまで仏教のことを表面的にしか知らなかった私は、仏教学部に入学してはじめて仏教を専門的に学び、仏教を構成する様々な要素の「意味」を知ることができました。「意味」を知ったことで私の学修意欲は高まり、大学院進学を決心。家族や先生方に支えていただきながら博士後期課程まで進み、2014年には博士号を取得することができました。

私にとって大学教員になるきっかけとなったのは、厳しくも熱心に研究指導をしてくださった先生方に対する憧れと、「仏教の観点から人間の営みについて、さらに上のステージで研究したい」という研究意欲の高まりでした。

### Q2 先生は どんな研究をしているの？

私は、中世・近世における日本仏教の歴史的展開、特に日蓮教団の歴史的展開について研究しています。寺院に所蔵される歴史資料の調査を通じて新たな史料を発掘し、それらを解釈することによって、仏教と社会の関係性や文化的影響の解明に取り組んでいます。

史料調査は主に寺院で行いますが、寺院に大切に保管される宝物だけでなく、建物も含めそこにあるすべてのものが歴史資料であり、研究対象となります。つまり、寺院という空間自体が、人間の営みによって生み出された「歴史」そのものなのです。調査に没頭していると、その史料の時代にタイムスリップしたような気分になり、その感覚がたまりません。史料が語る多彩なメッセージを読み解き、日本仏教史の新たな一面を描き出したいと考えています。

### Q3 仏教学部の学生に 4年間でどんなことを学んでほしい？

仏教の学びは、「僧侶を目指す人のための学問」と捉えるかもしれませんが、それだけではありません。仏教発祥から約2500年、仏教は常に人々の心を支える宗教として存在し続けてきました。その価値は、「2500年」という時間が物語っているでしょう。

これほど長い時間、国や人種を超えて人々に必要とされてきた仏教を学ぶことは、「人間を学ぶ」ということであり、実は「自分を学ぶ」ということに他なりません。つまり仏教の学びには、自分という存在を人として成長させてくれるヒントが詰まっているのです。学生のみなさんには、仏教の学びを通じて、未来に向けた仏教の「可能性」に気づくとともに、現代社会における自分なりの仏教の「生かし方」を見出してほしいと願っています。



授業風景



# みんなのゼミ自慢

せき ね かず き  
関根 一希 先生  
(地球環境科学部 環境システム学科)



## 生物と環境に関する研究を野外調査や 遺伝子解析のアプローチから

あじま けいたい  
記事: 安島 恵大さん(地球環境科学部2023年度卒)  
茨城県立下館第二高等学校  
みやじま とう や  
宮島 桐也さん(地球環境科学部2023年度卒)  
私立本庄第一高等学校



関根ゼミ

集・実験を繰り返しています。

「野外調査」では、自分たちで調査計画を立て、採集した個体を標本にして保存するまでの作業を行います。採集した個体は遺伝子解析にも用います。3年生の夏休み時期に「セミナーの基礎」というゼミごとの集中講義があり、この講義の中で、興味のある生物の決定とその情報収集、調査計画の作成、採集調査、標本作製といった野外調査の基礎を学びました。実際に乾燥標本作製するのですが、緻密に練った調査計画通りに、目的の生物であったアオオサムシを採集できた時には、私自身も大変興奮しました。

べントです。得られた研究成果から卒業論文を作成し、発表に至るまでには、くじけそうになることが多々ありました。今振り返ると、ゼミ内の仲間同士で協力し合ったことで発表会に至ることができたのだと思います。

私たちのゼミの良さは、先輩後輩関係なく意見交換ができる点や、研究の過程で関根先生から多くのアドバイスを受けられる点だと思います。生物調査をたくさん行いたい、遺伝子解析をやってみたいと思った方、ぜひ見学にいらしてください！

関根一希ゼミは生態遺伝学分野のゼミで、野外調査に加えて室内実験での遺伝子解析を行うことにより、生物と環境に関する実践的な研究をしています。

普段は、生物、特に遺伝的多様性など、遺伝子を用いた学術論文などの文献を読み、紹介発表や質疑応答による議論をしながら、生物を対象とした研究の考え方、研究方法を学んでいます。また、関根先生やゼミの仲間からアドバイスをもらいながら、野外での生物採集方法、遺伝子実験技術、データ解析方法を修得しスキルを向上させるため、採

「遺伝子解析」では、最初に関根先生と一緒に実験を行い、実験の工程に慣れてきたらすべての作業を自分たちだけで行います。実験で得たデータの解釈や考察などを、毎週、ゼミ生の前で発表し、意見交換をします。実験方法も含め、多くの疑問点が生じた場合、私たちのゼミは意見交換の場が多く、先輩後輩同士でアドバイスを送り合うことで、知識を身につけることができます。

研究活動の集大成である卒論発表会が、ゼミの一番のイ



関根ゼミ生が作製した乾燥標本

# キラリモラリスト×エキスパート 輝く人

つだ ゆう た ろう  
津田 優太郎さん  
(データサイエンス学部4年)

## 現役立正生がプロ野球独立リーグのチームで “スポーツデータサイエンティスト”として活躍

本学データサイエンス学部に通う4年生の津田優太郎さんは、現役立正生でありながら、プロ野球独立リーグに所属する「埼玉武蔵ヒートベアーズ」で“スポーツデータサイエンティスト”として活躍しています。

今回は、津田さんの学部での学びや、スポーツデータサイエンティストとしての活動についてお話を聞きました。

### —データサイエンス学部に進学した理由を教えてください

もともと野球をやっていて、スポーツやデータに興味がありました。自分は理系ですが、「理系でも文系でも学べるデータサイエンス」をうたっていた立正大学であれば、学びたいことを存分に学べると思い、地元長崎を離れ入学を決めました。

### —データサイエンス学部ではどのようなことを学んでいますか

1・2年生は基礎が中心で、3年生からプログラミングや統計学、実際に自分でデータを取って分析するなど、より深く専門的に学んでいます。

### —「埼玉武蔵ヒートベアーズ」で活動を始めたきっかけや、活動内容について教えてください

最初はデータサイエンス学部の永田先生の手伝いとして、この活動をサポートしていましたが、3年生になった時から一人で任せてもらえるようになりました。

ベアーズでは月4回、“スポーツデータサイエンティスト”として活動しています。

「打つ・投げる」などインパクト時のパワーの出し方や、「走る」時のスプリントなどの動作を、今までは指導者の目や感覚で指導していたことを、データを用いて選手たちとディスカッションをしながら分析し、選手の能力向上のサポートをしています。

自分がチームに関わるようになり、ベアーズの30m走の平均タイムが、4.5秒から4.2秒と、約0.3秒も速くなりました。

### —選手と関わる際に意識していることはありますか

「プロ野球独立リーグ」の選手だけあって、お金をもらって野球をする選手たちです。元NPB※選手もいますし、レベルが高い選手が多いので、自分の考えややり方を持っています。大学生の僕が、ただ改善点を伝えるだけでは選手ももちろん納得してくれません。データを話し合いの材料として、選手それぞれのやり方に落とし込みながら話し合い、正解へ導くことを意識しています。

### —将来について

今は明確に定まっていませんが、データサイエンス学部で学んでいることや、ベアーズでの活動を生かした仕事をしたいです。まずは、ベアーズで選手たちに信頼される“スポーツデータサイエンティスト”になりたいです。



実際に使用する回旋動作などを数値化できるマシン

※:NPB プロ野球運営組織である日本野球機構の略称で、セ・パ両リーグ合わせて12球団が加盟。

# 学部あれこれ

立正大学各学部から届いたレポートです！

## 文学部

### 文学部 創設100周年を迎えて

2024年度は、立正大学文学部創設100周年の年にあたります。学園新聞155号(2023年4月発行)では、100周年事業において予定されているさまざまな企画について紹介しました。企画がすでに実現しているものもあります。ここではそのいくつかを紹介します。

まず、オリジナルロゴマークが、インターネットを利用した公募を経て制作されました。このロゴは、飯塚司さん(文学部史学科2022年度卒)のデザインで、「文学部が100年目のその先へのステップへと駆け上がる様子をイメージしました。また、立正大学の『緑色』と橘をイメージした『オレンジ色』を使用することで、伝統とともに今後も活躍する立正大学を表した」としています(詳細は文学部ホームページ参照)。

あわせて記念グッズとしてロゴ入りのボールペン

セットを作製しました(写真参照)。品川区に本社がある三菱鉛筆のボールペンを使用し、パッケージは本学社会学科出身の画家・石川和賢氏のコンセプトアートに100周年のロゴマークがデザインされています。

教員の企画にはじまり、在学生のアイデアを介して制作され、卒業生によるパッケージデザインも加わり、地元の企業などさまざまな力によって出来上がったボールペンです。ロゴは教員の名刺にもデザインされ、このボールペンはオープンキャンパスの来場者に配布されました。

学生を主体とした「文学部100thアンバサダー」も始動しております。記念史の編さん事業も執筆依頼も済み、着実に進めております。今後とも大いに文学部を盛り上げていければと願っています。

文学部創設100周年記念事業  
企画委員会  
しやま ひでかづ  
石山 秀和



100周年記念グッズ ロゴ入りボールペン  
※パッケージデザインのため一部  
ロゴデザインを変更しています。

文学部ホームページはこちらから→



## 仏教学部

### 仏教文化公開講座—「こころと仏教」開催

立正大学仏教学部では、日頃の教育研究成果を広く社会に伝達する趣旨のもと、昭和57(1982)年から「仏教文化公開講座」を開催しております。その内容は仏教思想・文化・習俗など幅広い分野にわたり、講師陣も本学の教員の他、外部の学識者・専門家を招いて開催しております。

2023年度は、10月13日に、「こころと仏教」というテーマで講演とシンポジウムを開催しました。今回の講座では、現代社会における私たちのこころをテーマに、仏教が持つ幸せの処方箋について、現在、仏教学と脳科学の融合という最先端の研究を進めている2名の先生をお招きして、仏教の瞑想修行が私たちのこころに及ぼす影響について、実践的・科学的見地からお話をうかがうことができました。

まず、本学部、三輪是法教授が基調講演として「止観とは何か」を行い、中国天台宗の『摩訶止観』という書物に基づいて「止観」という修行法について解説しました。続けて東京大学人文社会系研究科教授、養輪顕量先生が「仏教の伝えた止観一念処・止・観」という題目で、「止観」を含めた仏教の瞑想法について総合的に説明され、最後に早稲田大学人間科学学術院教授・応用脳科学研究所所長である熊野宏明先生に、「止観は脳にどう現れるか」というテーマで、実際に行った実験データに基づいて、瞑想中の脳の変化についてご講演いただきました。

3名の先生方のご発表をもとにして、「仏教の伝えた止観と認知神経科学」と題して90分のシンポジウムを開き、仏教学と科学の学際的研究による新しい知

見に対して、会場からも積極的にご意見をいただきました。



仏教文化公開講座の様子

## 社会福祉学部

### 快挙！2024年度教員採用試験結果・リトミック指導者資格

社会福祉学科では中学校、高等学校、特別支援学校の教員免許状、子ども教育福祉学科では、保育士、幼稚園、小学校の資格免許の取得ができます。一般的には、教育学部の中に教員養成課程がありますが、社会福祉学部の中にある教員養成課程ですので、福祉の学びを土台とした、子どもたち一人ひとりの個性や考え方、生き方を応援できる先生を目指しています。

さて、2024年度の教員採用試験を見事突破し、たくさんの卒業生が4月からそれぞれの学校園で子どもたちと過ごす日々を送っています。2024年度の教員採用試験の結果は、特別支援学校教諭86.6%(合格者13名/受験者15名)、小学校教諭90.9%(合格者30名/受験者33名)と高い合格率となりました。また、中学校教諭(社会科)、高等学校教諭(公民)でも合格者

を輩出し、採用試験対策講座等でごんばってきた成果が今年も花開きました。

採用試験に見事合格された  
卒業生インタビューはこちらから→



続いて、子ども教育福祉学科では、リトミック指導者資格の資格取得が12年連続100%の合格率、全国1位の快挙を成し遂げました。昨年12月初旬に行われた「幼稚園・保育園のための指導者資格」1級の試験に臨んだ学生は、ピアノ・即興リズム創作・身体表現等の試験課題に挑戦し、見事全員合格を果たしました。

リトミックの様子はこちらから→



社会福祉学部公式InstagramやX(旧Twitter)、Facebookには、学生目線で投稿されるリアルな学生生活が紹介されています。今年度も社会福祉学部の学生の活躍が期待されます。



リトミック資格試験12年連続100%合格

# 01 FMしながわとのコラボレーション

品川区のコミュニティ放送局であるFMしながわのラジオ番組『シナガワラジオ(毎週金曜日11:30~13:00)』に、本学学生によるコーナー提供が実現しました。2023年10月から2024年3月まで月1回の放送で、内容についてはラジオ運営に携わりたい学生有志が定期的に集まって企画を考えました。放送にあたっては情報収集や原稿作成なども全て学生のみで行われ活動に参加した学生は20名程度で、学部も学年も様々です。



初回の放送(10月27日)では、品川キャンパスの学園祭「橘花祭」の開催にむけて、橘花祭実行委員会の委員長をはじめとした学生5名がゲスト出演し、橘花祭のイベント内容の説明や実施にあたっての意気込みなどインタビューを受けました。その後のレギュラー放送では、メンバー紹介、クリスマスに合わせて作られた食堂の特別メニューをクイズ形式で紹介するなど、多種多様な形で立正大学を少しでも多くの人に知っていただけるよう、学生ら

がーから企画をした内容で放送を行いました。また、学外の方だけでなく、当該コーナーの放送日は、品川キャンパス内の食堂等でも放送を流すなど学内での周知も積極的に行っています。

今後も季節やニーズに合わせた放送内容を検討し、様々な方に“立正大学の魅力”を発信できるよう活動していきます。

※この活動は、『令和5年度しながわ大学連携推進協議会会員大学への地域社会貢献活動支援補助金』を受けて実施しました。(2023年過去の放送回:10/27、11/24、12/22)



# 02 立正大学ビジネスセミナー2023 ~FOR THE BIZ~

立正大学ビジネスセミナー FOR THE BIZは、第1次中期計画で掲げていたアクションプラン「エクステンション講座の実施」を目的として、2022年度より開講しています。2023年度は「女性がますます活躍推進できる社会について」をテーマに“女性活躍推進社会セミナー”と題した講座を12月15日、19日、22日の全3回実施いたしました。本講座の開講にあたっては、品川区と城南信用金庫様からご後援をいただき、学生・一般の方のべ30名にご参加いただきました。



地域のニーズと本学の資源を掛け合わせた本講座の実施内容は下記の通りです。

- 第1回 「就労と育児の両立について～子育て世代へ向けて～」  
講師:山下 真実氏(株式会社こころく 代表取締役社長)
- 第2回 「女性の貧困の諸相～労働と社会保障から見えるもの～」  
講師:奥貫 紀文氏(相模女子大学 人間社会学部社会マネジメント学科 教授)
- 第3回 「女性労働とハラスメント～暴力とハラスメントのない世界に向けて～」  
講師:川真田 嘉壽子(法学部法学科 教授)

日本は、2023年ジェンダー・ギャップ指数で146カ国中125位となっており、女性の経済活動への参加や機会、政治面において順位が低くなっています。今回の講座実施にあたっては、こうした現状を有識者の方から見た視点で伝えることで、何か考えるきっかけにしたいという思いから、テーマを選定、企画を行いました。受講者からは「子育て支援の現場やお客様の声、コロナ前後の変化など、本質的に大事なことから具体的事例、ご経験談まで共有していただき、自分に紐付けて考えることができました。」「一人ひとりがこの社会を構成していて、その当事者として、自分にできることを一つひとつ実践していくことが大事だと思います。」「法的な観点から見た日本の現状などを知ることができました。ジェンダー平等が謳われるなかで、日本はどう変わっていかねばならないのか、考えさせられる機会になりました。」などのお声をいただきました。

今後はより一層社会ニーズを捉え、様々なテーマで社会人向け講座を拡充していきます。



# 03 立正オープンカレッジ

熊谷キャンパスでは毎年、前期(6月下旬から7月下旬)と後期(9月下旬から10月下旬)の土曜日に、地域貢献・生涯学習支援を目的とした「立正オープンカレッジ」を開催しており、全9学部の講師陣によって各学部1講義、計9講義を実施しています。

2023年度においても時代に即した講演テーマで多種多様な講義を展開し、受講生の方々から好評を得ました。

## ～2023年度 講演テーマ～

- 第1回 『マネーと投資の心理学』  
講師:林 康史(経済学部 教授)
- 第2回 『子どもたちのこれからの考え、今～生活・運動・遊び～』  
講師:奥富 庸一(社会福祉学部 教授)
- 第3回 『小学校の英語教育～日本と韓国を比較して』  
講師:前田 隆子(心理学部 特任講師)
- 第4回 『仏道修行と心』  
講師:三輪 是法(仏教学部 教授)
- 第5回 『ChatGPTと考える私たちの未来～生成型AIの仕組みと現在～』  
講師:相馬 亘(データサイエンス学部 教授)
- 第6回 『高校生から分かる面白い競争と知財の話』  
講師:妻 連甲(法学部 准教授)
- 第7回 『地球温暖化～そのしくみの科学と、人間社会にとっての課題』  
講師:増田 耕一(地球環境科学部 教授)
- 第8回 『持続可能な社会の実現とサステナビリティ情報開示～企業と社会の新しいあり方』  
講師:阿部 健人(経営学部 講師)
- 第9回 『魔術とは何か?』  
講師:武内 大(文学部 教授)

## ～2024年度立正オープンカレッジについて～

開催時期・講演テーマなどの詳細につきましては、決定次第、研究推進・社会貢献センターホームページでお知らせいたします。受講希望者は、5月下旬頃、当センターのウェブサイトの「お知らせ」をご覧ください。下記お問い合わせ先までご連絡ください。

緑あふれる熊谷キャンパスで、一緒に学んでみませんか。

## 【お問い合わせ先】

立正大学研究推進・社会貢献課(熊谷)  
立正オープンカレッジ係  
電話:048-536-6019



## 立正大学学園の学園新聞に 広告を掲載しませんか?

発行部数	広告サイズ	掲載料金
10万部	4色/横252mm×縦95mm	220,000円
	4色/横126mm×縦95mm	110,000円

お申し込みの際は、URL、もしくは2次元コードから、掲載までの流れと、広告掲載におけるガイドラインをご確認の上、お申し込みください。

立正大学学園新聞は年3回発行している学園情報誌です。学内のトピックスや同窓生の活躍などを掲載しています。卒業生、在校生と保護者、関連学校へ郵送でお届けし、キャンパス内でも配布しています。

【お問い合わせ・お申し込みはこちら】

立正大学広報課 新聞編集係  
https://www.ris.ac.jp/magazine/ad.php



メールのタイトルを「立正大学学園新聞 広告掲載申込み」としてご連絡ください。

国民に正しい投資文化を広める

## 資産を育てる 資産形成

株主の入団  
KABUNUSHI NO IRIGUCHI



NISAの相談  
お受けします



株主の入口では、株の売買差益(キャピタルゲイン)だけを目的とはせず、専門家による適切なアドバイスにより、株主としての金融知力を身につけ、国民経済に寄与し、豊かな人生を送っていただくことを目的に、設立したプロジェクトです。

Japan Business Brainは、資産運用のアドバイスを行う金融のプロフェッショナルの集まりで、全国に展開しています。  
資産形成・資産運用 子供向け金融教育 セカンドオピニオン 企業型確定拠出年金(DC)サポート 生命保険コンサルティング・家族信託

株式会社 Japan Business Brain 金融商品仲介業者関東財務局長(金仲)第911号  
東京都中央区日本橋箱崎町32番地3-609 ☎03-6206-0978



# 教職・資格教育センター

## 教員1年目の本学卒業生を紹介

教職・資格教育センターでは様々な取り組みを行っていますが、もちろん中心となるのは、希望する学生が教員免許を取得して教員になることです。

今回は、卒業して1年目の教員である我孫子海舟<sup>あびこかいしゅう</sup>さんに勤務校のことを教えてもらいました。

また、昨年10月末に、地球環境科学部地理学科で我孫子くんと共に学び、本学大学院に進学した佐藤颯哉<sup>さとうさやか</sup>さん、伊藤大平<sup>いとうたいへい</sup>さん、そして、1年後輩の昨年4年の小野祐翔<sup>おのゆうと</sup>さん3人が、我孫子さんの勤務校を訪れて授業を見学し、代表して小野さんに見学の感想を紹介してもらいました。



留寿都高校の校舎(12月)



留寿都高校  
我孫子海舟先生

2023年4月から北海道留寿都高等学校で勤務している地球環境科学部地理学科卒の我孫子海舟です。担当教科は1年生の公共と、農業と情報(学校認定教科)、2年生の地理総合です。本校は、全国唯一の農業福祉科で農業と福祉を専門的に学べる高校です。人口2000人にも満たない小さな村にある高校ですが、学生寮があるため道内各地から生徒が集まっています。

この職場に来てから、農業福祉科特有の専門性の高い授業を拝見し、心に留まるものがありました。それは、生き生きと活動している生徒の笑顔でした。農場で野菜や花を育てたり、実習室で介助方法

を学んでいたりと、生徒が自ら進んで学んでいる姿を見て、「常に自分ごと」と思えることが生徒の主体性を育み、生徒自身の将来の夢や目標の形成へとつながるのだと考えました。

これからの高校地歴では、単元ごとに問いを設けるだけではなく、生徒が主体的に考えられることや地学協働をテーマにその地域にしかできない身近な事例を用いた授業を展開することなどが必要だと感じています。そこから実現できるように、実力や経験を身につけていくことが私の課題です。教育者として一人前になれるよう、先輩の先生方に日々助言をいただきながら精進していきたいと思います。

2023年の10月に、我孫子先生の「地理総合」の授業を見学させていただきました。「地理総合」は、2023年度から新しい必修科目として設置されたものです。

2年生が8名の少人数での授業でした。①地理的な見方・考え方を問うような発問から、②生徒の意見を引き出し、深め、伸ばすといった活動、③白地図を活用して色を塗る作業や模式図に表すなど、既習事項と関

連付けながら、書く・話す授業展開でした。

また、ICTの活用や生徒の関心に結び付けた問かけなど、教師の想いが強く伝わってきました。大学の講義ではないリアルな授業を見学できたことはよい機会になりました。

地理学科の専門性を生かした教員として教壇に立つ先輩の姿に、とても誇らしい思いでした。



小野祐翔さん(2023年度卒業)

(左から小野さん、佐藤さん、伊藤さん)

## 立正大学 by AERA完成

「立正大学 by AERA」が完成しました。現在、俳優として活躍する徳重聡<sup>とくしげさとし</sup>氏をはじめとする卒業生、そして9学部の教員に光を当てます。朝日新聞出版による深いインタビューを通じて、どのように「『モラリスト×エキスパート』を育む。」を体現し、その立正精神を社会で生きる力としているのかを探求しました。先日、150周年を迎えた本学の魅力と、そこで培われる人物像を深く理解できる一冊です。

前回の学園新聞でもご案内しましたが、購読を希望される卒業生のみならず、右記2次元コードからお申し込みください。もうすでに申し込みされている方につきましては、随時発送しております。



お申し込みは  
こちらから!



## 大学公式ホームページ リニューアル!

本学の公式ホームページが3月末、新しく生まれ変わりました。今回のリニューアルの大きな特徴は、日本語を含む5つの言語(日本語、英語、中国語2種、韓国語)による多言語化の対応です。これにより、世界の国々に向け、立正大学を正しく理解できるようになります。

また、ウェブサイト内の検索機能を強化し、学部ごとのオリジナルサイトを含めた検索結果の表示が可能に。ユーザーが求める情報へ迅速かつ直感的にアクセスできるようになりました。新たな門戸を通じて、世界中の人々とのつながりを深めていきます。

# 就活の早期化に対応、 12月開催「業界・企業研究フェア」



## アフターコロナの売り手市場と就活での課題

2023(令和5)年度卒の大学生の新卒採用市場においては、コロナ禍から経済活動の回復が進むとともに、コロナ禍期の採用意欲停滞からの反動、インバウンド(訪日外国人)で好調な旅館・ホテル業界、2024年問題が懸念される物流や建設業界、慢性的人手不足が続くIT業界など、ほぼ全業種での人手不足感により企業の採用意欲は高く、就職率(内定率)は2022(令和4)年度卒に続いて高水準で、コロナ禍以前の学生側優位の売り手市場へ戻ったと考えられます。

採用意欲の高まりは採用選考の早期化に繋がり、特に3年次夏期のインターンシップ以降、早期選考の

案内や参加者限定セミナーなど、就職・採用活動日程<sup>※1</sup>、いわゆる就活スケジュールの広報活動開始日である3年次の3月1日より前のプレ期の活動を増やす企業が増えています。これは2024年卒業予定学生の3年次3月1日時点の内定率が2年前に比べて12.7ポイント高い30.3%、採用選考活動開始日である6月1日時点では79.6%と8割近くであることからもうかがえます(図1)。

このように売り手市場の状況ですが、学生に就職活動で苦労したことを尋ねた調査(図2)によると、「自己分析」、「エントリーシートなどの書類提出」、「面接を受ける」、「企業研究」等が上位となり、また就職後

の入社1年目の社員への調査<sup>※2</sup>では、「仕事内容が想像と違った」、「就職活動中に多くの業界を見ておけばよかった」、「もっと足を動かして情報収集すべきだった」といった声があることから、全体としては売り手市場であっても、入社後も高い満足度を得るには自己分析や業界・企業への理解・研究はキーポイントであり、十分な事前準備が必要と言えるでしょう。

※1 厚生労働省「大学等卒業・修了予定者の就職・採用活動時期について」  
※2 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ「入社1年目社員のキャリア満足度調査」

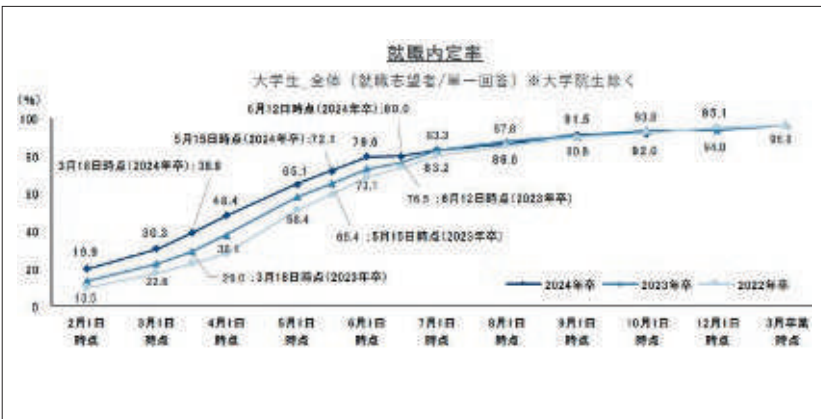


図1 出典:就職みらい研究所 就職プロセス調査(2024年卒)「2023年12月1日時点内定状況」

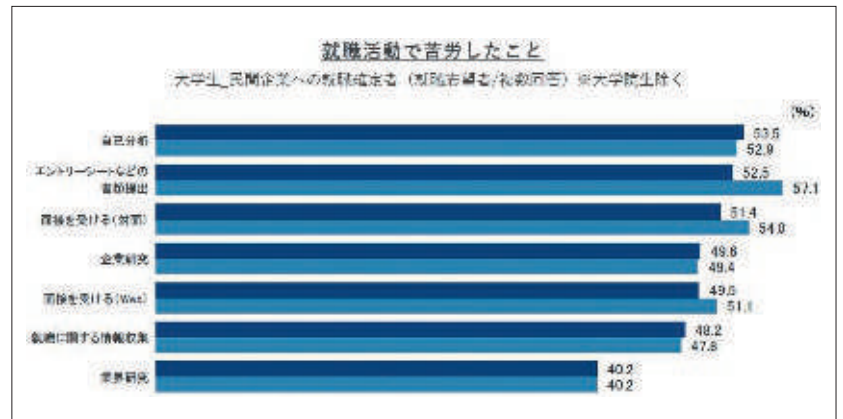


図2 出典:就職みらい研究所 就職プロセス調査(2024年卒)「就職活動で苦労したこと」(上位部分抜粋)

## 業界・企業研究フェアを機に満足度の高い就職を

キャリアサポートセンターでは、具体的に就職活動を進めるにあたり、3年次より重点ポイントである自己分析、履歴書・エントリーシートの書き方、面接対策、業界・企業研究等について、就職ガイダンスやキャリアアワー等を通じてレクチャーしています。その中で業界・企業研究については、セミナー形式だけでなく様々な業界から実際に企業を招き、人事担当者から属する業界や自社について、事業内容、展望、働き方等を直接聞き、理解を深めていく場として「業界・企業研究フェア」を開催しています。

このイベントはこれまで広報活動開始日前後の2月と3月に開催してきましたが<sup>※</sup>、令和5年度は早期化の流れを受けて12月にも開催し、また3年生だけでなく、低学年次から社会に目を向けてもらうよう2年生も参加可能としました。



業界・企業研究フェアの様子

「就活の早期化」と言われてはいますが、学生の中にはやりたいことがまだ漠然としていて業界が定まらない、あるいは1回目は志望業界のブースを訪れたものの、2回目以降は未定で迷っている様子も多く見受けられました。就職活動の初期の段階では、往々にして業界大手や実店舗を構えるBtoCの業界・企業に目が向きがちですが、このイベントには知名度は高くとも業界内や基盤とする地域で伸張または安定した業績を残している企業が多く参加しており、このような学生にはキャリアサポートセンターの職員が声を掛けて現在の状況を確認し、まだ想定していない業界や「隠れた優良企業」を紹介し、なるべく多くの業界・企業に触れるよう支援に努めました。学生からは「今まで知らなかった、興味がなかった業界(企業)でしたが、お話を聞いて興味が湧きました」という声があり、今後の活動に向けて視野が広がったことと思われる。

また今回は、来校企業の中で参加されている若手の立正OB・OGと一緒に軽食を取りながら、リラックスした雰囲気での就活の体験談、現在の働いている様子や今後へのアドバイス等を聞ける「卒業生交流会」を開催しました。入社1~2年目等、年齢の近い先輩が社会人として生き生きと自分の言葉で話す姿勢は、現役の学生にとって大きな刺激となったことでしょう。

大学生の新卒採用は、コロナ禍の収束により、以前



卒業生交流会の様子

から続く人手不足を背景に売り手市場へと再び転換し、大きく状況が変わらなければこの傾向は続くものと思われます。しかし、売り手市場による就職率の高さが各個人にとって満足度の高い就職となるかは必ずしもイコールとは言えず、やはりしっかりと準備が必要となります。学生のみならずには自身の今後のキャリアを見据え、満足度の高い就職に繋げるため、キャリアサポートセンターからの情報やイベントを大いに活用していただきたいと思います。

※3月は「合同企業説明会」として開催



Come and join us!  
新しいことに、  
チャレンジしてみましょう!



国際交流センターでは、グローバル化する社会で活躍できる人材の育成を目指し、国内外における留学・研修プログラムやキャンパス内での国際交流、語学力向上支援を実施しています。

**1 海外派遣・オンラインで学ぶ**  
～多様な留学・研修プログラム～



ニュージーランドでの語学研修を経て、更に海外へ興味を持つようになりました。次は長期留学を目指します!

いの うえ ゆう や  
**井上 友哉さん**  
(経営学部2年)

大学時代にしか経験できない様々な留学・研修プログラムを実施し、海外での学びや経験のチャンスを広げています。プログラムは、最大1年間の中・長期留学と2～6週間の短期海外研修の2制度にわかれています。

**【2024年度派遣予定先】カナダ・ニュージーランド・韓国など**

校友会の支援を受け、ネイティブスピーカー講師による英会話レッスンを無料で受講できます。レベルが分かれているため、初心者の学生も安心です。語学力を向上させたい学生向けには、TOEFL ITP®テストやビジネス英語など様々なテーマを扱った講座をセンター主催で実施しています。

2023年度に実施した東京ディズニーシーでの国際交流会には、35名の外国人留学生と国内学生が参加し、交流を深めました。参加者からは、「留学生だけではなく、他学部の学生とも繋がる機会になった」「国内学生の友達ができ本当にうれしかった」などの声が上がりました。キャンパスごとに、留学生のサポートや交流を目的とした、学生サポーターを募集しています。留学生と一緒に活動したい学生は、ぜひご参加ください。

**【過去3年間の留学生サポート活動実績】**

品川キャンパス	立正大学学生国際交流会～ <sup>リア</sup> RIA～(留学生と国内学生の交流など) 中国・韓国出身の本学学部・大学院の留学生との言語交換イベント
熊谷キャンパス	<sup>リスマイト</sup> Rismate(韓国・台湾などから来日した日本語を学ぶ短期留学生のサポート活動など)

**2 英会話ラウンジ・語学講座**  
～語学力向上を後押し～



先生の丁寧なご指導で、楽しく英会話ができます! 毎回テーマが変わるので、語彙力がアップしました!

や ち よ あゆみ  
**八千代 歩さん**  
(2023年度社会福祉学部卒業)

**3 キャンパス内での国際交流**  
～留学生との交流をととして、世界を学ぶ～



Rismateの活動では、留学生との交流をととして、伝える力や相手を理解しようとする力が身につきます!

やま もと りょうへい  
**山本 凌平さん**  
(地球環境科学部3年)

**第4回 立正大学英語スピーチコンテスト -Rissho Voices-**

本コンテストは立正大学学園150周年記念事業の一環として、国際交流センターが企画・運営を行うコンテストです。第4回を迎えた今回は、2023年12月2日に初めて熊谷キャンパスにて開催されました。

大学の部の発表では「地方活性化」、「モラリストとしての責任」など5つのテーマから学生が選択し、様々な視点によるスピーチが繰り広げられました。また前年度に引き続き高校の部も実施され、立正大学付属立正高等学校から1名の発表がありました。

大学の部では第1位に中本空良さん(文学部4年)、第2位に倉光飛雄馬さん(心理学部4年)、第3位に木村圭一朗さん(2023年度社会福祉学<sup>なかもと</sup>研究科<sup>くらみつ ひゅうま</sup>修了)が選出されたほか、高校の部に出場した小川<sup>こがわ</sup>暁<sup>あき</sup>大さん(立正高校3年)には敢闘賞が贈られました。

また、熊谷キャンパスでの開催にあたり、ご後援いただいた熊谷市国際交流協会より特別賞が、木村圭一朗さんへ贈られました。

観客からは、「英語学習の刺激になった」「思いのこもったよいスピーチが聞けた」「発表者の熱意が伝わった」などの感想が寄せられ、活気にあふれるコンテストとなりました。



※学年は2024年4月時点

立正大学英語スピーチコンテスト出場者

活躍する校友 /

**立正人**  
RISSHO BITO

京都ハンナリーズ 広報担当マネージャー

かさ かわ しん いち ろう  
**笠川 真一朗さん**

2016年 法学部法学科卒業



**元「アメトーク!」出演芸人から  
プロバスケットチームの広報!?**

異色のキャリアを持つ卒業生、笠川真一朗さんに学生時代のお話やキャリアについて語ってもらいました。

**一立正大学に進学した理由を教えてください**

高校時代、野球部のマネージャーをしていて、大学でも続けたいと思っていました。複数大学の選手の練習環境や寮、キャンパスなどを見て、立正大学でマネージャーをやりたい!と思い、入学を決めました。

**一学生時代の思い出や印象に残っている授業はありますか**

西谷尚徳先生の「文章表現」の授業が印象に残っています。自分が文章を書くことが「好き」ということに気付くきっかけになりました。それが今の仕事にも生きていますし、基礎を作ってくれた先生には感謝しかありません!また、寮生活でお世話になったパドマのご飯がおいしく、今でも食べたくなります(笑)。

**一卒業後の進路について教えてください**

西谷先生の勧めで松屋銀座に就職し、食品部門で仕入れや接客などに携わりました。お笑い芸人にも憧れていたもので、働きながら養成所に通いました。お笑い芸人では、ありがたいことに「アメトーク!」にも出させてもらいました。その後、スポーツの記事を書くフリーライターに転身しました。京都ハンナリーズの試合を見に行った時に、これまでの経歴やライターとしての実績から「広報として働かないか」と誘いを受け、京都ハンナリーズに入社しました。

**一現在のお仕事について教えてください**

京都にあるプロバスケットチーム、京都ハンナリーズの広報マネージャーをしています。選手たちと共に日本中の試合に帯同しながら、ホームページの更新やSNSの発信、実際の試合では、ゴール下に座っての写真撮影や選手の取材対応などを行っています。西谷先生の授業で学んだことがとても生きていて、限られた文字内で無駄なことは入れずにいかに分かりやすく伝えられるかを考えながら発信しています。

試合に勝利したときはとてもうれしいですし、選手やスタッフだけでなく、ファンの方全員が一緒になって喜ぶのはスポーツの魅力であると感じます。



お仕事の様子

**一進路を考える立正生にメッセージ**

“やりたいことは今そのときやる”を大切に、多くのことに挑戦してほしいです。私自身、自分のやりたい!を大切にできたので、選択に後悔はありません。立正生のみなさんも“今やりたいこと”を探して、たくさん挑戦してください。

## 高祖累歳録 上下 2帖

深見要言輯 [寛政6年(1794)刊]

本書の著者である深見要言<sup>ふかみ ようごん</sup>は、文化・文政(1804-1830)頃の奥州出身の人物です。日蓮宗の熱心な信仰者であり、日蓮聖人の伝記を著したり、日蓮宗関係の書物を校訂・出版したりするなど、在家信者の立場から出版活動に従事したことで知られています。本書も、要言が手掛けた書物で、日蓮聖人の一生を年次によって略述した折本仕立ての書物です。

要言の自序によると、本書は、日蓮聖人の五百十三回忌を記念した書物で、日蓮聖人の行状を記し、「諸家の名画」を以て図示したとあります。本書に刊記はありませんが、日蓮聖人の五百十三回忌にあたる寛政6年(1794)に刊行されたと考えられます。

序文に「諸家の名画」とあるように、本書には、多くの著名な人物による挿絵が見られます。たとえば、「阿佛房千日尼」を描いた<sup>きた おまさのぶ</sup>北尾政演は、江戸の戯作者として知られる山東京伝(1761-1816)のことで、阿仏房と千日尼は、日蓮聖人が佐渡配流中に檀越となった夫婦の名です。このほかにも、当時、浮世<sup>うたがわとよはる</sup>絵師として活躍していた歌川豊春(1735-1814)・初代歌川豊国<sup>うたがわとよくに</sup>(1769-1825)・勝川春英(1762-1819)・北尾政美(1764-1824)らの挿絵が見られます。



▲歌川豊春画の挿絵 抱きかかえられる赤子の日蓮聖人を描いた図

『高祖累歳録』の版木は、明治期に入り、日蓮宗大教院の手に渡り、須原屋<sup>すはらや</sup>茂兵衛<sup>もへえ</sup>らの書肆によって印刷されました。この後印本は、折本であった寛政版とは異なり、4冊の冊子体となっています。また、それだけでなく、先に挙げた浮世絵師らの挿絵が、なぜか省かれてしまっています。なお、後印本の『高祖累歳録』は多く残っていますが、今回紹介している寛政版の数は少なく、貴重な資料です。

浮世絵師らの挿絵が後印本で削除されてしまった理由について、かつて立正大学文学部教授であった山上<sup>やまがみちゆせん</sup>と泉<sup>いづみ</sup>(1880-1951)は「悲しや、それらは賤しい女流の風俗を畫く者の筆だからとあつて、それを削除してしまつてつひに現行の和綴四冊本とした始末ではないか」(「立正大学図書館と錦絵」、『立正大学学園新聞』46号、1933年10月6日)と述べています。山上氏の推測通りだとすれば、今とは異なり、江戸の浮世絵師が軽く見られていたということになるのかもしれない。



▲歌川豊国画の挿絵 日蓮聖人が那須野の石に題目を書く様子を描いた図

## 文書館だより

## 立正大学と池上線

立正大学品川キャンパスのすぐそばにある大崎広小路駅は、蒲田駅から五反田駅までを結ぶ東池上線の一駅です。池上電気鉄道(当時)によって1928(昭和3)年に全通しました。日蓮宗の大本山である池上本門寺や、日蓮聖人が池で足を清められたという洗足池などの観光のために敷設されたといわれ、全部で15の駅があります。

写真は1939(昭和14)年ごろの五反田駅周辺で(同年度の立正商業学校卒業アルバムより)、写真中央に看板が見える「白木屋」は、日本のデパートの先駆けといわれています(現在の「五反田東急スクエア」の前身)。写真右側に見える高架が池上線で、当時の学生や教職員が通学や通勤に利用したであろうことが想像されます(写真左側の路面電車は市電)。生活における利便性の向上や学外活動の充実にもつながったことでしょう。

興味深いエピソードとして、1987(昭和62)年ごろの立正中高の学生は、五反田-大崎広小路駅間の定期券の購入が禁止されていたという逸話が残っています。当時の立正中高の生活指導担当の先生によると、300mしか距離がないことから健康のために歩いてほしいという学校側の教育的指導と、JR五反田駅の乗り換え混雑による危険防止のためだったといえます。ただし、雨の

日だけは利用が許可されたそうです(1987(昭和62)年7月7日の読売新聞記事より)。当時の学生たちにとって、堂々と電車に乗れる雨の日は特別な一日だったのかもしれない。



1939(昭和14)年ごろの五反田駅周辺



RISSHO JUNIOR&SENIOR HIGH SCHOOL

# 立正大学附属立正中学校・高等学校

## 職業講話開催される

2024年1月24日に、本校卒業生が講師となって中学1年生に語る職業講話が行われました。

今回は8名の講師を迎え、立正中高時代の生活から大学を経て、今の仕事に就くまでの動機や道のり、また困難を乗り越えた苦労などを熱く語ってくれました。パワーポイントや写真などを駆使して、生徒たちにわかりやすく興味を持つようにユーモアたっぷりに話してくれました。

日ごろの教室では経験できない先輩の貴重な話を聞いて、後輩たちが今後どのような職業観を育んでいけるか、とてもよい機会になりました。



前列左から  
ふくだ ゆり 福田 有里さん(看護師)、あてぎ せりな 宛木 芹菜さん(介護福祉士)、まるやま くみ 丸山 久美さん(外来生物防除専門官)

後列左から  
むらかみ しゆり 村上 主史さん(パイロット)、やすい ひろかず 安井 浩和さん(スーパー経営)、  
こばやし ひろまさ 小林 寛正さん(飲食店経営)、たかはし まさや 高橋 正弥さん(薬学臨床開発モニター)、  
かめい ゆうき 亀井 雄揮さん(歯科医)

## 先生の素顔

おざき あんり  
尾崎 杏理先生(英語科)



立正高校から神奈川大学英文科に進み、新卒で母校に勤務し、5年目を迎えました。現在、高校2年生の副担任を務めています。高校から始めたチアリーディング部の顧問として、日々部員の指導にあたっています。

小さい時からECCに通っていたのがきっかけで、英語に興味を持ち始めました。高校の授業で文法や語法がわかるようになり、さらに英語の面白さや深さが増していきました。高校の時の幸先生の英語指導に影響を受け、英語の教師になろうと決めました。

チアリーディングは信頼関係がないと成り立たない競技なので、先生や部員同士、また外部コーチの方々など誰に対しても挨拶や礼儀を重んじてほしいと願っています。

今の生徒に望むことは、学校で決められたことに対し自分で理解をし、責任を持って行動できる人間になってほしいです。そしてこの経験を通して、社会に出てからも正しい判断力を持った大人になってほしいと願っています。



RISSHO UNIVERSITY SHONAN HIGH SCHOOL

# 立正大学淞南高等学校

## サッカー部監督に就任

のじり たけし  
野尻 豪先生(保健体育科)



いつも立正大学淞南高校に力強いご支援をいただき、誠にありがとうございます。

コーチとして23年間経験を積ませていただき、2023年度よりサッカー部の監督をさせていただくことになりました。多くの方々の努力でつくりあげてきたこの立正大淞南高校サッカー部で、高校サッカー選手権に関しては18回、インターハイに関しては14回の全国大会を共に経験させていただきました。2023年度も2度の全国大会出場は果たせたものの、私自身、まだ全国での勝利を手にすることができていません。ここで監督を務めることの意味、その重さ、責任、そういったものは本当に心の底から感じています。そんな中、南総監督そしてこれまでの卒業生と共につけてきたこのサッカーの環境、これをどうやって進化させ、その素晴らしさをどうやって次の世代に残していくのか、その思いをしっかりと胸に刻んで、結果を積み重ねながら前に進んで行けるよう努力したいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

## 20回目の全国高校サッカー選手権大会出場

2023年12月29日、第102回全国高校サッカー選手権1回戦が、神奈川県の日延三ツ沢球技場で行われ、群馬県代表の前橋育英高校と対戦しました。

序盤は前線からのハイプレッシャーと両サイドの突破を生かした攻撃で、ペースを握りながらも得点に結びつけることができず、前半18分、一瞬のスキを突かれ先制を許してしまいました。失点するも攻撃の手を緩めず、何度も決定的なチャンスまで持ち込みましたが、決めきることができませんでした。更に少し厳しいジャッジとなったハンドの判定でPKを許し

てしまい、点差を広げられました。後半8分には3枚替えを敢行し、狙い通りの鋭いカウンターから途中出場の大西侑磨くん(当時3年)が頭で叩き込み、1点差に詰め寄りました。しかし、試合終盤にFKの流れからゴール前の混戦を押し込まれ1-3で惜敗しました。

思い描いた結果にはなりませんでした。最後まで戦い抜いた仲間の勇姿に部員全員心から感動しました。たくさんの応援ありがとうございました。

令和5年12月28日 開会式 @国立競技場  
 令和5年12月29日 初戦vs前橋育英高校1-3 @日延三ツ沢球技場



## サッカー部

### 一人ひとりの将来の可能性を広げ、未来へつなげる

#### 5年で19名のJリーガー

立正大学体育会サッカー部は、1975年に強化クラブとして認定され、来年度でついに50周年を迎えます。社会で活躍する人材の育成をモットーに掲げ、数多くのOB、OGを輩出してきました。

サッカーを通じて一人ひとりの将来の可能性を広げ、新たな分野や社会性を大切にしています。その中で、この10年では関東大学サッカーリーグに復帰、定着をし、ここ5年で19名のJリーガーが誕生していきました。

昨年のカップ戦では、見事関東予選を突破し、総理大臣杯に出場することができました。リーグ戦においても前期を首位で折り返すなど、今季の1部昇格へ大きく期待が持てます。新入部員も全国屈指の選手が入部してき、チームの底上げやレギュラー争いにも注目です。

#### 新主将紹介

くま くら たくみ  
**熊倉 匠**  
(データサイエンス学部4年)

2024シーズン主将になりました熊倉匠です。

昨シーズンは、アミノバイタルカップ(関東2位、総理大臣杯全国出場、ベスト8)、関東大学サッカー2部リーグ4位、1リーグ(グループリーグ1位、関東トーナメント3位、全国初出場)など、あと一歩のところまで負けてしまい勝つことの難しさを実感しました。

今シーズンは、昨年の反省を生かしながら自分たちの特徴を存分に発揮し、チーム一丸となって戦っていきたくと思っています。そして、たくさんの方々への感謝の気持ちを忘れずに、結果という目に見える形で恩返ししていきたいと思ひます。応援よろしくお願ひします。



#### 注目選手

よしの はると  
**吉野陽翔**  
(データサイエンス学部4年※栃木SC内定)



立正大学体育会サッカー部の吉野陽翔です。

今年はチームとして結果を残すこと、個人では成長することを大切にしたいです。2年連続で1部昇格できず悔しい結果で終わっています。その悔しさから学ぶこと得られたことたくさんあります。1部昇格し日本一になり、全員で「最高の1年間だったな」と、笑って終われるようにしたいです。

チーム仲がよく、最高のメンバーがそろっているので、全員で力を合わせて頑張りたいと思ひます。

## 硬式野球部

### 1部昇格を目指し、日々の練習で着実に力をつける



vs東洋大学戦試合前整列写真



vs拓殖大学戦(今季主将を務める渡辺凌矢)

新キャプテンは、昨年レギュラーとして活躍し、チームの勝利に貢献してきた渡辺凌矢(データサイエンス学部4年・日大三)が務めます。リーグ戦へ向けての抱負をキャプテンに語ってもらいました。

硬式野球部の新キャプテンを務めます、渡辺凌矢です。

春のリーグ戦で、1部に昇格するために日々練習に取り組んでいます。攻守ともに1部のチームを超えるために課題を明確にし、毎日の練習で一つひとつクリアしていくことで技術を着実に身につけられるよう日頃から取り組んでいます。

野球だけではなく、私生活、学校での姿勢など他の学生の模範となるような行動を心がけ、みんなから愛されるチームを目指して活動していきますので、これからも硬式野球部の応援をよろしくお願ひします。

#### リーグ戦の結果報告

東都大学野球春季2部リーグ戦 / 6勝6敗1分 4位  
東都大学野球秋季2部リーグ戦 / 5勝8敗 5位

#### 注目選手

#### 新入部員・ドラフト情報

新たに25名の新入生が入部します。高校選手権(甲子園)にも出場した強豪校から数多くの選手が入部してくれます。昨年の高校生ドラフト候補に名を連ねた仁田陽翔選手(仙台育英)は新入生の中でも最注目選手です。

また、昨年春に大学野球日本代表候補合宿に参加した飯山志夢(データサイエンス学部4年・中央学院)が今季ドラフトでも注目されており、今季の活躍とともに、2年ぶりに我が部からのプロ野球選手輩出にも期待です。

# ラグビー情報

## ラグビー部男子

## 新入部員と共に、悲願の大学選手権出場へ

### 注目選手・新入部員情報

今年度は、フィジーから新たに2名、ナミビアから1名の留学生が入部予定です。1人目は、大型CTBのカカウニキオ・シモネ(189cm/100kg)です。オーストラリアのプロリーグラグビー(13人制)チームである、シドニー・ルースターズにスカウトされ、故郷フィジーを離れてプレーしていた選手です。

2人目は、大型FWロックのバティウエティ・テビタ(204cm/108kg)です。身長2mを超える選手で、ラインアウト等空中戦での活躍が期待されます。

3人目は、ナミビアからの留学生クルツ・オリバー(200cm/140kg)です。ラグビー強豪国である南アフリカでプレーし、大型ロック、No.8として、体格を生かしたパワフルなプレーが期待される選手です。

その他にも、オーストラリアと日本のハーフで、FBのグッドウィン・ジャックが、日本人選手と留学生のコミュニケーションを円滑にしなが、プレーでもチームへの貢献が期待されます。

ジャックは、小学3年生まで日本で育ち、その後オーストラリアのシドニーに移住し、主にリーグラグビー(13人制)のチームでプレーしていました。

この4名以外に、日本人選手が32名入部予定です。高校ラグビーの全国大会である、全国高等学校ラグビーフットボール大会に出場する強豪校から、多数の選手が本学に来てくれます。

また、2023年12月3日～4日に行われた、U20(20歳以下日本代表)関東TID合宿に、スクラムハーフの宮川晴登(データサイエンス学部新2年)、ロック/フランカーの橋本優真(データサイエンス学部新2年)、スクラムハーフ/スタンドオフの加藤真矢(データサイエンス学部新2年)が招集され、強豪大学の選手たちと共に、20歳以下の国際大会メンバーに選ばれるために激しいポジション争いをしています。(2024年2月26日現在)

U20日本代表メンバーについては、日本ラグビーフットボール協会サイト(<https://www.rugby-japan.jp/u20/>)よりご確認ください。→



### 戦績

関東大学リーグ戦1部 / 2勝5敗 7位  
1部/2部入替戦 対 専修大学(28 対 19) ☆1部残留

関東大学ジュニア選手権カテゴリー3 / 4敗  
カテゴリー3/4入替戦12/9(土) 対 山梨学院大学Jr.(17 対 33)  
★カテゴリー4降格

### 春季リーグ戦へ向けての抱負

橋本敬太(データサイエンス学部4年)

先輩方が、リーグ戦1部で戦えるチャンスを残してってくれたので、今年こそ、チームの目標である「大学選手権出場」を目指し、頑張っていきたいです。

「関東大学リーグ戦1部7位」という結果に満足せず、これまでの練習や寮での生活態度を見直し、昨年以上にチーム一丸となって、同じ目標に向かって努力を惜しまず活動していきます。

立正大学ラグビー部の良い伝統を残しながら、新たな歴史を作れるよう、今年1年間頑張っていきますので、応援よろしくお願いたします。



橋本敬太



今シーズン大学選手権出場を目指すラグビー部



昨シーズン全試合にスタメン出場した八木崇太(データサイエンス学部4年)

## ラグビー部女子

## 新入部員も迎え、チーム一丸となり目指すは世界へ



私たち、ラグビー部女子の目標は、日本を代表する選手に一步でも近づくこと、そして立正大学から、また熊谷の地から日本を代表して、世界へ挑戦し続けることです。チーム一丸となって部の目標、個々の目標に向けて取り組んでいます。

今年度の特筆すべきポイントは、創部以来最多人数の新入生の入部です。

13人もの新しい仲間たちがラグビー部女子に加わり、チームに新たなエネルギーと刺激をもたらしています。新しい部員たちは、意欲的にトレーニングに取り組む姿勢が印象的で、早くも

チーム全体の雰囲気をも明るくしています。

2024年4月から5月にかけて開催予定の、太陽生命ウィメンズセブンズシリーズなど、国内4大会で1つでも上位入賞するため、新入生を含め、ラグビー部女子は、トレーニングと練習に励んできました。ラグビーの技術の向上はもちろんのこと、怪我をしない身体づくり、戦術や戦略の理解も深めています。

これにより、練習試合でも新陳代謝が感じられ、活気あるプレーが展開されています。2024年夏に開催予定の、7人制ラグビーでのパリオリンピック出場への挑戦、15人制ラグビーの国

内大会優勝、国際大会出場も目指すべく、日々の活動をしています。

また、ラグビー部女子は、地域社会との交流を大切にしており、今年度も熊谷市教育委員会と協力し、市内小中学校34校にタグラグビー授業の指導を行う予定です。地域のスポーツイベントへの参加も予定しており、地域のみなさまや子どもたちとのふれあいの中で、スポーツやラグビーの楽しさ、そしてチームワークの大切さを伝え、地域社会との結びつきを一層深められるよう活動していきます。

今まで取り組んできた活動を通じて、ラグビー部女子はますます団結し、目標に向けて前進しています。部員たちの一体感が、チームの力強さとなって表れつつあり、立正大学の仲間との絆を大切にしながら、新たなシーズンを迎えられることを期待しています。

学園新聞では、引き続きラグビー部女子の活動をお伝えしていきますので、応援よろしくお願いたします。

＼ 学生生活を充実させよう！ /

立正大学サークル情報

# CIRCLE 2024

本学には100以上の  
様々な課外活動団体が活動しています。  
今回は、「陸上競技部」を紹介します。

CIRCLE INFO

## 陸上競技部

### 駅伝部門に新監督就任。 パフォーマンスの向上を目指す。

2024年4月から陸上競技部駅伝部門の監督に、  
同部門コーチであった服部翔大氏が就任しました。

新たに立正大学陸上競技部駅伝部門の監督に就任しました、服部翔大です。このチームで監督を務めることに感謝と誇りを抱いております。

これまでの選手時代の経験と知識を生かして、チーム全体のパフォーマンスの向上に尽力してまいります。選手と一緒に練習をこなし、近い立場になって話をすること、また時には、監督として選手を導けるような指導を心掛け、全体だけに目を配るのではなく、選手一人ひとりが持つ個性や強みを理解し、選手の能力を最大限に発揮できるような環境づくりを心掛けます。

2024年シーズンは、大学駅伝予選会で25位以内を目標に、チーム全体の底上げからしていきたいと思います。昨年度の大学駅伝予選会の結果は、他大学に比べてまだまだ走り込みや足づくりが不十分でした。もう一度、基本的なところから見直し、長い距離でも他大学と競い合える身体づくりをしていきます。

大学駅伝予選会だけではなく、関東インカレや全日本インカレのような個人種目にも力を入

れ、1人でも多くの自己ベスト更新・個々のパフォーマンスの向上を目指していきます。

選手、コーチ陣、スタッフ、そして応援して下さるみなさまと協力し、団結したチームとして、より高い領域に挑む覚悟を持っております。みなさまの温かいサポートとご協力を、これからもよろしくお願いたします。



#### 服部 翔大 新監督プロフィール

埼玉栄高等学校、日本体育大学卒業。  
大学在籍時、東京箱根間往復大学駅伝競走に4年連続出走出場、3年次にはチームキャプテンに任命され、5区区間賞と金栗四三杯を獲得し、日本体育大学の30年ぶり10回目の総合優勝に寄与した。大学卒業後、Honda、LOGISTEED(旧日立物流グループ)陸上部を経て、2023年度より本学陸上競技部駅伝部門のコーチに就任。

#### 学生安否確認システム登録のお願い

本学では、自然災害や地震発生時に、在籍する学生の安全確保を目的とし、緊急連絡ならびに安否確認の手段としてセコムトラストシステムズが運営する「セコム安否確認サービス(e-革新)」を導入しています。

パソコンでの登録やその他詳細については、  
『ポータルサイト>Myツール>キャビネット>3. 学生生活支援>  
6. 安否確認システム内の各種資料』を参照してください。

企業コード:01013(半角) パスワード:生年月日の下4ケタ(月日)  
ユーザーID:学籍番号(英字は大文字) (例)4月1日 → 0401



お問い合わせ 品川学生生活課 03-3492-6698 / 熊谷学生生活課 048-536-6012

#### 本紙へのご感想をお待ちしております!

##### 立正大学学園新聞アンケート

立正大学学園新聞編集委員会では、読者のみなさんの声をもとに、よりよい紙面づくりをしていきたいと考えております。  
今後の紙面づくりの参考にさせていただきますので、アンケートにご協力ください。



アンケート

#### 学園新聞Web版・公式サイト・SNSはこちらから



学園新聞  
Web版



立正大学マガジン

検索



公式サイト



立正大学

検索



公式facebook



公式X  
(旧Twitter)



モリスX  
(旧Twitter)

セミナーやイベント情報、クラブ活動の様子などをSNSで配信中!  
ぜひフォローしてチェックしてみてください。